

日本における中国語教育の課題

—教材は副詞をどう提示するか—

李 貞 愛

1. はじめに

近年世界における第二言語としての中国語学習者数は年々増えており、中国語教育をまっつわる環境も「国別化」や「地域化」が進み、これに伴って教授法や教材なども「国別化」、「地域化」を追求するようになってきた。中国語教育は教育が行われる環境によって大きく二つに分かれる。そのうち一つは中国国内で行われる外国人学習者向けの“対外汉语教学”(以下「対外中国語教育」と称する)である。「対外中国語教育」は1950年、清華大学が“东欧交換生中国语文专修班”(「東欧交換留学生中国語専修クラス」)を設置し、新中国成立後初めて外国人留学生を受け入れたことでスタートした。そしてもう一つの中国語教育は海外で行われる中国語教育を指すが、「対外中国語教育」と区別して本稿では「在外中国語教育」(中国語にすると“在外汉语教学”となる)と称する。日本における中国語教育は正に「在外中国語教育」である。「対外中国語教育」と「在外中国語教育」の最も根本的な違いは目標言語環境(target language environment)にあるかどうかであり、この違いによって、教授法や教材、学習者の習得状況や特徴など様々な面において、異なるアプローチが必要になってくる。

本研究は日本における中国語教育という視点からの考察である。日本で行われる、日本語母語話者を対象とする中国語教育の一環として、文法学習は避けて通れないものであるが、その学習項目を教材でどのように提示すべきかに焦点を当てて議論を展開する。なお、文法学習項目というとさまざまな内容が含まれるが、今回は副詞だけを取り上げることとする。

2. 研究方法

本研究は、まず第二言語習得の観点から「対外中国語教育」と「在外中国語教育」の違いについて理論的根拠を示す。そして次に、日本人学習者の副詞の習得における誤用例について、その誤用パターンと特徴を分析する。学習者の誤用例は筆者が2009年から2016年まで授業内で実施した筆記テスト(語順並べ、作文)の中から集めたものに、卢涛(2005)からも一部引用している。最後は学習者の誤用パターンと特徴から、現在の教材に存在する副詞の提示の問題点を洗い出し、改善点を考案する。

3. 「対外中国語教育」と「在外中国語教育」の違い

崔希亮(2010)では「対外中国語教育」について、「「対外中国語教育」は中国国内で行われる留学生向けの中国語教育を指し、(中国以外の)外国で行われる外国語としての中国語教育は「中国語国際教育」(“汉语国际教育”)である。」¹と述べている。名称の違いからもわかるように、「対外中国語教育」と「在外中国語教育」は区別して考えなければならないが、その理由は主に以下の三つがあげられる。

1) 目標言語(中国語)のインプット量が異なる。

「在外中国語教育」は、非目標言語環境で行われるため、目標言語のインプット量は、中国で行われる「対外中国語教育」と比べて圧倒的に不足している。外国語を習得するためには、学習者が十分な量の、理解可能なインプットを受容することがとても重要なことである。従って、中国語のインプット量から言えば、「対外中国語教育」は「在外中国語教育」より優位に立っている。

2) 目標言語(中国語)の文法学習の形態が異なる。

「在外中国語教育」において、学習者の文法学習は教室授業などによって「明示的知識」(explicit knowledge)として学習される。Ellis(1994)によると、「明示的知識」は文法規則について知っていることを指し、説明的で、意識的な知識である。それに対し、中国で行われる「対外中国語教育」は、目標言語(学習言語)が日常生活で使用されている環境にあるため、学習者の文法学習は教室授業による「明示的知識」の学習に、コンテキストの中でたくさんの用例に出会える「暗示的知識」(implicit knowledge)の学習が加わることになる。Ellis(1994)では「暗示的知識」は直感的知識で、ある文が正しいかどうかを判断することができる状態であると指摘している。

3) 言語実践の環境に差がある。

「在外中国語教育」は近年の人口移動の増加によって、中国語を实践できる時間と場所がだいぶ増えてはいるものの、やはり中国で行われる「対外中国語教育」のほうが日常的に中国語を使える自然な言語環境にあるため、中国語を实践する機会が多く、加えて語用的側面、社会言語能力の習得、コミュニケーションストラテジーの使用増加などによって、中国語のコミュニケーション力が全般的に向上しやすい。

上記のうち、特に二つ目の文法学習において、「在外中国語教育」を受けている学習者は教室で得た文法知識を実際の言語使用の場面で運用できず、外国語学習の潜在能力が十分に発揮できない場合が多い。

4. 学習者向けの中国語文法体系を構築する必要性

文法教学(文法を教える、学ぶことを指す)は「在外中国語教育」においてとても重要な部分である。では、「対外中国語教育」と「在外中国語教育」はそれぞれ文法教学をどのように捉え、どこに重点を置いているのか。

齐沪扬(2013)では、「対外中国語教育」における文法は第二言語教育としての文法教

学であり、学習者用文法と教師用文法の二つに分かれる。そして学習者が考えている中国語の要点と難点は、往々にして学習者の母語にない、または意味と用法において相違点が見られる言語現象であり、これは同時に教師用中国語文法教育の要点と難点でもある。」²と指摘している。この指摘は以下のように捉えられる。

- 1) 学習者の母語が異なれば、中国語を学習する際の要点と難点も異なる。
- 2) 日本人学習者が中国語を学習する際の要点と難点は、当然他の母語背景を有する学習者と異なる。
- 3) 従って日本における中国語の文法教学は日本語と中国語の相違点に基づいて、要点と難点を見極め、日本人学習者向けの中国語文法教学を行う必要がある。

即ち、日本人学習者向けの中国語文法体系を構築し、それを教材や教授法などに反映させることは日本における中国語教育を進める上で必要不可欠であると言えよう。

以上のような理論的背景を踏まえ、次節ではまず日本人学習者の副詞の習得における特徴を把握すべく、副詞の誤用例のパターンを考察する。

5. 副詞の誤用パターンと特徴

5.1 誤用について

誤用(error)は、目標言語と母語の差に起因する言語間エラー(interlingual error)と、目標言語の中での誤用、つまり言語内エラー(intralingual error)の2種類がある。学習者の誤用は言語間エラーの場合もあれば、言語内エラーの場合もある。また、ある誤用はこの2種類が混ざっている場合もある。誤用は中間言語(interlanguage)の発展段階、化石化、目標言語の規則を過度に一般化する過剰般化などの認知、心理的要因、学習ストラテジーとも関係がある。誤用分析によって、学習者の誤用の原因が明らかになり、教材や教授法の改善を図ることで学習者の言語習得につなげることができる。

5.2 日本人学習者の副詞の誤用パターン

本研究は日本人学習者の副詞の誤用パターンや特徴から、教材で副詞をどう提示すべきかに焦点を当てている。筆者が集めた誤用例(誤用例の後に出典を示していないもの)と卢涛(2005)で挙げた誤用例の一部(誤用例の後に卢涛(2005)と明記したもの)について分析を行った結果、学習者の副詞の誤用パターンは以下の5種類が確認された。

- ① 語順の違い
- ② 脱落
- ③ 付加
- ④ 代替
- ⑤ 品詞の混同

5.2.1 語順の間違い

5種類のパターンのうち、文中における副詞の位置が間違っているという「語順の間違い」は最も目立っており、間違いの場所は文頭、文中、副詞連用時の順番の間違い、介詞フレーズがある場合など様々である。以下具体例を見よう。

a. 副詞を文頭または文中に置く誤用例

- 1) 经常我和朋友在食堂吃冰激凌。(卢涛 2005)
正：我和朋友经常在食堂吃冰激凌。
- 2) 实在我的学习生活每天很忙。(卢涛 2005)
正：我的学习生活每天实在很忙。
- 3) 差不多学生都不喜欢学习。(卢涛 2005)
正：学生差不多都不喜欢学习。
- 4) 已经我作业做完了。(卢涛 2005)
正：我作业已经做完了。
- 5) 竟然小刘工作很忙，把妻子的生日都忘了。
正：小刘工作很忙，竟然把妻子的生日都忘了。
- 6) 确实为这次试讲，我已经做了充分的准备。
正：为这次试讲，我确实已经做了充分的准备。
- 7) 中国、美国、英国都我去过。
正：中国、美国、英国我都去过。
- 8) 一年后，将这里变成一个图书中心。
正：一年后，这里将变成一个图书中心。
- 9) 你真了不起，学了只两年多，就拿到了 HSK 中级证书。
正：你真了不起，只学了两年多，就拿到了 HSK 证书。
- 10) 蛋糕上面有还漂亮的花和字。
正：蛋糕上面还有漂亮的花和字。
- 11) 我虽然很爱她，却她不喜欢我，没办法。
正：我虽然很爱她，她却不喜欢我，没办法。
- 12) 外边冷，进屋来快坐吧。
正：外边冷，快进屋来坐吧。

中国語の副詞は基本的に連用修飾語として述語の前に置かれるが、1) から 6) までは副詞を文頭に置いた誤用例で、7) から 11) までは文中の、主語の前または述語動詞の後に置いたため誤用になったものである。12) は後文の“进屋来坐”が連動文であるため、副詞“快”は最初の動詞フレーズ“进屋来”の前に置くべきところを二番目の動詞“坐”の前に置いたので誤用になっている。

b. 副詞連用時の順番の間違い

- 13) 同学们已经都做完作业了。(卢涛 2005)

正：同学们都已经做完作业了。

- 14) 日本人都几乎知道小泉。(卢涛 2005)

正：日本人几乎都知道小泉。

- 15) 原来不是所有的错误并都会留下遗憾。

正：原来并不是所有的错误都会留下遗憾。

- 16) 李校长为了解决这个问题，真可是绞尽脑汁。

正：李校长为了解决这个问题，可真是绞尽脑汁。

- 17) 我常不去图书馆看书。

正：我不常去图书馆看书。

13) は主語の“同学们”を統括する範囲副詞“都”の後に時間副詞の“已经”を置かないといけない。しかし14)の“几乎”と“都”は二つとも範囲を表し、連用するときは“几乎都”というように順番が決まっているのである。15)は否定副詞“不”と副詞“并”が連用すべきところを離して使用したため、間違った文になっている。16)は語気副詞“可”と程度副詞“真”が連用する場合であるが、語気副詞は通常他の副詞の前に並べるので“可真”が正しい順番である。17)は頻度を表す副詞“常”と否定副詞“不”が連用する場合であるが、“常去图书馆看书”を否定しているので、“不”を“常”の前に置くべきである。

c. 介詞フレーズがある場合

- 18) 我<在中国>将留学。

正：我将<在中国>留学。

- 19) 你<拿我>又开玩笑。

正：你又<拿我>开玩笑。

- 20) 我正抱歉地望了一眼<为我>担心的校长。

正：我抱歉地望了一眼正<为我>担心的校长。

- 21) 姐姐说，要本来<给我>搞个生日晚会。

正：姐姐说，本来要<给我>搞个生日晚会。

- 22) 我<把新买的书>没放在书架上。

正：我没<把新买的书>放在书架上。

文中に介詞フレーズ(<>で括った部分)がある場合、副詞は通常介詞フレーズの前に置くが、18)から20)まではこのルールに反している。21)は介詞フレーズ“给我”があるが、副詞“本来”は助動詞“要”の前に置かなければならないルールがあるため、誤用になっている。22)は否定副詞“没”を介詞フレーズ“把新买的书”の前に置くルールに反している。

5.2.2 脱落

脱落は、副詞を使うべきところを使わなかったため、誤用になっている現象を指す。

23) 每个日本人有手机。(卢涛 2005)

正：每个日本人都有手机。(副詞“都”の脱落)

24) 我家里人几乎去过中国。

正：我家里人几乎都去过中国。(副詞“都”の脱落)

25) 除了北京和上海以外，我准备去杭州。

正：除了北京和上海以外，我还准备去杭州。(副詞“还”の脱落)

26) 日中两国的友好往来早在两千年前已经开始了。(卢涛 2005)

正：日中两国的友好往来早在两千年前就已经开始了。(副詞“就”の脱落)

27) 学校离我的宿舍不太远，骑自行车五分钟到了。

正：学校离我的宿舍不太远，骑自行车五分钟就到了。(副詞“就”の脱落)

28) 和咖啡相比，我喜欢喝红茶。

正：和咖啡相比，我更喜欢喝红茶。(副詞“更”の脱落)

29) 她不太可爱，做的菜不好吃。

正：她不太可爱，做的菜也不好吃。(副詞“也”の脱落)

30) 即使你给我钱，我不愿意做那样的事。(卢涛 2005)

正：即使你给我钱，我也不愿意做那样的事。(副詞“也”の脱落)

23) は代詞“每”があるので、副詞“都”で呼応させるべきで、24) は副詞“几乎”があるので“都”と連用する必要がある。25) は条件型の複文であり、文頭に“除了”があるので、副詞“还”で呼応させないといけない。26) は“早在两千年前”(「2000 年も前に」)という時間的に早い意味を表すフレーズがあるので、副詞“就”を置くべきであり、27) は“骑自行车五分钟”(「自転車で行くと5分」)という時間的に短い意味を表すフレーズがあるので、こちらも副詞“就”を置くべきである。28) は比較文であるが、「A と比べて、B のほうがもっと好きだ」という意味を表す場合、相対的程度副詞³“更”を用いる必要がある。29) は「彼女」が“不太可爱”(「あまり可愛くない」)に加えて、“做的菜”(「作った料理」)も“不好吃”(「美味しくない」)という並列・添加の意味を表すため、副詞“也”を置かないといけない。30) は譲歩型の複文であり、文頭に“即使”があるので、後文は“也”で呼応させることが必要である。

5.2.3 付加

付加は、副詞を置く必要がないのに使ってしまったため、誤用になっていることを指す。

31) 天气突然很热起来了。

正：天气突然热起来了。

32) 她爱这么很难看的男人。(卢涛 2005)

正：她爱这么难看的男人。

33) 珍珠奶茶比什么饮料都最好喝。

正：珍珠奶茶比什么饮料都好喝。

34) 她问我“圣诞节你想干什么？”，我就回答说“我不想干什么。”(卢涛 2005)

正：她问我“圣诞节你想干什么？”，我回答说“我不想干什么。”

31) は形容詞“热”の後に方向補語の“起来”がついて「暖かくなる」という意味を表し、程度副詞“很”は置く必要がない。32) は形容詞“难看”の前に程度を強調する代詞“这么”と程度副詞“很”を連用したため誤用になっている。33) は比較文であるため、形容詞“好喝”の前に絶対的程度副詞を置くべきではない。34) は条件や因果の関係を表す複文ではないため、副詞“就”を置かなくても良い。

5.2.4 代替

代替とは、意味的に類似しているが、使い方が異なる他の副詞を使用したため、誤用を招いたことを指す。

35) 我家离大学一点儿远。(卢涛 2005)

正：我家离大学有点儿远。

36) 食堂里经常人很多。(卢涛 2005)

正：食堂里总是人很多。

37) 在王府井，什么东西也买得到。(卢涛 2005)

正：在王府井，什么东西都买得到。

38) 黄山太美了，以后我又要来。(卢涛 2005)

正：黄山太美了，以后我还要来。

39) 我还不吃饭呢。

正：我还没吃饭呢。

40) 三个月后，到底小张找到了他的朋友。

正：三个月后，终于小张找到了他的朋友。

41) 他装着高兴的样子，心里实在很难过。

正：他装着高兴的样子，心里其实很难过。

42) 特这个数字我感到亲切。

正：尤其这个数字我感到亲切。

35) は比較文ではないため、“有点儿”を使うべきところを“一点儿”を使ったことが原因で誤用になっている。36) は“经常”と“总是”の使い分けの問題で、どちらも「いつも」という意味であるが、ある状態が常に続いている場合は“总是”を使うべきである。37) は疑問詞“什么”の後に“都”で呼応させるか、“也”で呼応させるかの問題である。“都”と“也”はどちらも疑問詞と呼応して使用できるが、肯定形式には“都”を使用すべきである。38) は“又”と“还”の問題であるが、二つとも「また」という意味で、動作や行為の重複に使用できる。ただし、すでに繰り返した動作行為には“又”を使い、これ

から繰り返す動作行為には“还”を使うべきである。39)は否定副詞の“不”で否定するか、“没”で否定するかの問題であるが、“不”は通常「～しない」という意志の否定に用いられ、“没”は「～していない、～しなかった」という動作や変化の完成もしくはそれらの到達状態に対する否定に用いるため、ここは“没”を使って動作の未実現を表すべきである。40)は“到底”と“终于”の問題である。二つとも「とうとう、ついに」という意味であるが、“到底”は主語の後に置き、“终于”は主語の前後どちらにも置けるので、主語“小张”の前に置くなら“终于”を使うべきである。41)は“其实”を使うべきところを“实在”を使用したため、誤用になっている。“其实”も“实在”も「実際には、実は」の意味を持っているが、前述の内容を否定して、後文に対照的なことを述べる場合は“其实”を使うべきである。42)は「特に」という意味に当たる副詞として“特”を使用しているが、“特”は副詞と形容詞を兼ねる語で、副詞の場合「とても、すごく」という程度の意味になる。「特にこの数字には」という意味を表したい場合は副詞“尤其”(「特に、とりわけ」)を使うべきである。

5.2.5 品詞の混同

このタイプの誤用は品詞の違いを意識せず、意味を優先して使用したため、誤用になったものを指す。

43) 一共学生都检查身体了。

正：所有学生都检查身体了。

44) 高年级同学不痛快，很恐怕。

正：高年级同学不痛快，很可怕。

45) 他脸色不佳，显得病了。

正：他脸色不佳，好像病了。

46) 你先休息一下，再我们学习。

正：你先休息一下，然后我们学习。

43)は形容詞“所有”を用いて“所有学生”(「全ての学生」)とすべきところを、副詞“一共”(「全部で」)を使ったため、誤用になっている。44)は「怖い、恐ろしい」という意味を持つ形容詞“可怕”を用いて述語とすべきところを、副詞“恐怕”(「恐らく」)を用いている。これは“恐怕”が日本語の「恐怖」と形態的に近いための誤用と思われる。45)は「病気のようだ」の意味を表すのに、副詞“好像”(「まるで～のようだ」)を使うべきところを、動詞“显得”を使用したため誤用になっている。46)は「その後」という意味を表すのに接続詞の“然后”を使うべきであるが、副詞“再”を用いている。

以上日本人学習者による副詞の5種類の誤用パターンを見てきたが、副詞の文中における位置、日本語では必須でないが中国語では必要とする副詞、意味的に類似している副詞の使い分けなどが副詞の学習難点であることが分かった。また日本人学習者は副詞の学習において意味を優先し、品詞をあまり意識しないことも判明した。では、日本人学習者の

副詞の習得状況について、日本における中国語の副詞の誤用分析および研究ではどのようなことが指摘されているのか。

6. 日本における中国語の副詞の誤用分析と研究

まず郭春貴(2001)では、副詞“也”の位置の問題、副詞を名詞の前に置いて名詞を修飾させる問題、範囲副詞“就”“才”“只”の問題を取り上げ、学習者の誤用は母語干渉が主な原因であると指摘している。そして刘爱群(2015)では、1年間の学習歴を持つ300人近い学習者を対象に筆記テスト(問題形式は選択、語順並べ、穴埋め、翻訳の4つである)を行い、副詞“才”と“就”の習得状況を考察したが、その結果、①副詞“就”の脱落がもっとも目立っている、②“才”と“了”を一緒に使用することで誤用になった比率が高く、これは日本語による干渉と思われる、③“就”と“才”は意味と用法が複雑であるため、学習者にとって習得しにくい副詞である、ということが明らかになっている。『現代漢語八百詞』では、“才”の意味と用法について5項目に分けて記述され、“就”の意味と用法については7項目に分けて記述されている。さらに“就”は副詞、介詞、接続詞という三つの品詞をまたがっている。これほど複雑な副詞“就”と“才”は日本では初級の教材に出てくる。

また王振宇・李小捷(2012)では日本語の「ちょっと」に相当する“有点儿”と“一点儿”“一下”の習得状況について考察を行っている。それによると、学習者は中国語のニュートラルな意味またはポジティブな意味を有する形容詞にも“有点儿”を使用したため、誤用になった現象が多いことから、学習者に中国語の形容詞を教える際、ネガティブな意味、ニュートラルな意味、ポジティブな意味のどちらなのかを明確に提示した方が良いと述べている。

上記の誤用分析と研究はいずれも日本人学習者が中国語の副詞を習得する上で、母語である日本語の干渉が誤用の主要因となっていると結論づけている。では、日本語の副詞はどのような特徴を持っているか、中国語と比較しながら見てみよう。

7. 日本語の副詞の特徴

三原(2008)によると、日本語の副詞は語順が比較的自由である。即ち、文中に置かれている位置が異なっても、さほど意味に影響がないとされている。例えば、副詞「急いで」は以下①②③④のどこにも置ける⁴。

①、部長は②本社に③応援を④依頼した。

しかし、中国語の副詞はそれほど自由ではない。上記の例で言うと、「急いで」は中国語で“连忙”という副詞に相当するが、“连忙”は文頭の①と目的語の前の③には置けないことになっている。

また、小泉・玉岡(2006)によって証明された日本語の副詞の基本生起位置は下記のようになっている。

- a. 陳述副詞：基本語順は、ASOV。

例：あいにく、たぶん、おそらく、基本的には、など。

- b. 時間副詞：基本語順は、ASOV または SAOV

例：もう、まだ、とくに、ときどき、急に、など。

- c. 様態副詞 / 結果副詞：基本語順は、SAOV または SOAV

例：トントンと / きれいに、など。

こうしてみると、日本語の副詞は文中における位置に関して言えば中国語よりずっと自由であり、この特徴が日本人学習者の中国語の副詞の習得に影響を与えていると考えられる。

8. 中国語教育における副詞の教え方

では、中国語の副詞はどのように教えたら良いか。この課題を解決するためには、まず中国語の副詞の特徴を把握し、その上で教科書での提示内容と教室授業での説明の仕方を工夫することが考えられる。

8.1 中国語の副詞の特徴

中国語の副詞は品詞としては“虚詞”の類に属される。“虚詞”はいわゆる「機能語」であり、文法上の働きをするだけで、単独では文成分にならない単語である。一般的には、副詞、介詞、接続詞、助詞、感嘆詞、擬声語が“虚詞”の類に属されるが、語と語の文法的関係、文法的意味、語気を表す重要な手段である。

“虚詞”の中でとりわけ副詞は意味が複雑で、使い方においても使用必須、使用可能、使用しても使用しなくても良いという三つのタイプがあり、文中に置く場所も固定的と非固定的の二通りがある。さらに、副詞の中には形容詞兼副詞、名詞兼副詞、動詞兼副詞のように、複数の品詞にまたがるものも多く存在している。

従って副詞を教えるに当たって、教科書での提示内容および教室授業での説明の仕方において、できる限り具体的な情報を明確に提示し、説明する必要がある。

8.2 どのような情報を提示するか

5で分析した学習者の誤用例から分かるように、副詞を教える際、それぞれの意味と具体的な使い方、特に文中に置かれる場所、副詞を連用する場合のルール、意味的に類似している副詞の使い分けなどに関する情報を提示することはとても大切である。

8.2.1 副詞の位置情報を提示する

まずは常用副詞の文中における位置、つまり副詞は通常主語の後、述語の前に置くという一般ルールについてインプットをするべきである。その上で、文中における位置が比較的固定されているものとそうでないものをリストアップして提示すると良い。例えば、吕文华（2014）では常用副詞の位置について以下のようにまとめている。

a. 主語の後、述語の前に置き、位置が固定されているもの

例：刚 已经 曾经 就 正 在 正在 将 老
 总 都 一共 一起 一块儿 只 又 再 还
 也 常常 往往 很 怪 太 挺 十分 最
 更 不 没 别 仍然 互相 亲自 有点儿

b. 位置が固定されていないもの

- 語気副詞、一部の時間副詞は主語の前、または主語の後、述語の前に置くことができる。ただし、副詞によっては位置が変わることにより、意味と語気も変わることがある。

例：忽然 立刻 马上 从来 渐渐 幸亏
 难道 到底 反正 也许 果然 差点儿

- 一部の程度副詞は、述語の前だけではなく、述語の後にも置くことが可能である。述語の後に置く場合、程度補語となる。

例：很 极

8.2.2 副詞と音節の関係について提示する

中国語の副詞には、以下のように1音節と2音節を兼ねるものがある。

例：刚 / 刚刚 渐 / 渐渐 常 / 常常 单 / 单单 仅 / 仅仅 稍 / 稍稍
 大 / 大大 略 / 略略 频 / 频频 时 / 时时 万 / 万万 早 / 早早

このような副詞は、文中における位置が音節と関係があるので、その点について学生に提示する必要がある。

8.2.3 副詞が連用する際の位置情報を提示する

副詞と副詞の連用は、前後の位置が複雑であるため、具体例を提示する方法が効果的である。呂文華（2014）では常用副詞が連用する際の前後の位置について以下のようにまとめている。

a. 位置が固定されている副詞と否定副詞が連用する場合、以下の二つのパターンがある。

- 否定副詞が前置するもの：一块儿、一起、马上、亲自、光、曾、单
- 否定副詞が後置するもの：永远、忽然、根本、决、一直、才、又、反正、简直、从来、本来、仍然、渐渐、更加、稍微

b. 位置が固定されていない副詞と否定副詞が連用する場合、否定副詞は前置、後置どちらも可能である。

例：很 一 很 不 / 不很 太 一 太 不 / 不太 全 一 全 没 / 没全
 一定 一 一定 不 / 不一定 都 一 都 不 / 不都

8.3 教科書ではどのように副詞を提示しているか

日本で出版されている中国語の教科書は副詞の提示において以下のような特徴がある。

1) 副詞の意味について

基本的には新出単語の中で、品詞名と日本語の意味をつけている。複数の意味を有する副詞については、最もよく使われる意味を提示するようにしている。そして語気副詞については、例えば「語気を強調する」といった簡単な説明を入れているものもある。

2) 文法的特徴と使い方について

たいてい副詞は新出単語の中で処理しているので、副詞の文中における位置や具体的な使い方については情報の提示が不足している。また、副詞に含まれている語気についての具体的な説明や複数の意味を持つ副詞の意味項目の整理も足りない。学習者の誤用例からも分かるように、副詞の文法的位置、使用場面、語気などは学習者の副詞の習得において非常に大切な情報である。

3) 副詞の組み合わせ機能について

副詞は基本的に動詞、形容詞を修飾するが、一部の副詞は名詞、数量詞を修飾することも可能である。また、副詞と副詞の連用においては一定のルールもある。しかし現在の教科書にはこのような情報がほとんど見られない。

4) 類義語の弁別について

意味的に類似している副詞の使い分けができない、副詞と形容詞の兼類詞であるため品詞の区別がつかないなどが原因で誤用を招く場合が多い。よって、類義語の弁別は副詞を教えるに当たって重要な手段の一つと言えよう。相原(2015)では副詞の類義語を70組ほど取り上げているが、このような研究成果を教科書や授業でたくさん活用すると良い。

8.4 「在日中国語教育」における副詞の教学範囲

副詞の提示内容と説明の仕方以外に、副詞をどこまで教えるかという問題もある。現代中国語には900くらいの“虚詞”があり、そのうち常用なものは500前後ある。中国の《汉语水平等级标准与语法等级大纲》(1996)では275の“虚詞”がリストアップされ、その内訳は副詞が141、介詞が49、接続詞が63、助詞が22である。そして副詞の中で、甲級詞が26、乙級詞が51、丙級詞が32、丁級詞が32と分けられている。一方、日本の中国語教育学会学力基準プロジェクト委員会が編纂した『中国語初級段階学習指導ガイドライン』(2007、初級段階とは学習時間90分×2回×2年間学んだ場合を指す)は1000の語彙を収めているが、そのうち副詞は以下の6種類で合計62と指定されている。

a. 時間、頻度を表す副詞

正 在 才 刚 已经 一 一直 马上 常常 正在
立刻 早就 先 从来 快 忽然 老 渐渐 有时候 经常

b. 程度を表す副詞

很 太 最 非常 特别 更 越 有点儿 真 互相 比较

多 好

c. 範囲を表す副詞

都 一起 一块儿 一共 只 总 只好 一边

d. 重複、連続を表す副詞

还 还是 又 再 也

e. 強調または逆接を表す副詞

就 大概 也许 可 到底 当然 原来 恐怕

f. 肯定または否定を表す副詞

不 没 没有 不用 别 不要 一定 必须

次は日本の中国語検定を見てみよう。中検研究会(2014)が編集した『中検3級問題集2014年度版』を参考に、2003年から2013年まで計32回の中国語検定の問題を精査したところ、95の重点的な副詞がリストに上がった。重点的な副詞というのは、正解として使用されている、または正解と関係がある、キーワードとして使用されている副詞を指す。この95の副詞を中国のHSK(漢語水平考試)大綱1-4級にリストアップされている副詞と比較したところ、60くらいの副詞が重複していることが判明した。なおHSK大綱1-4級に取り上げられていないが、日本の中国語検定で重点副詞とされているものは以下の通りである。

不过 不要 常(常) 差点儿 迟早 倒 反正 反而
非 分别 赶紧 根本 怪不得 好好儿 基本
既 简直 渐渐 绝对 快要 可 立即 亲眼
亲自 一边 一口气 有点儿 正 只是 总

このように、「在日中国語教育」における副詞の教学範囲と「対外中国語教育」における副詞の教学範囲は重なっている部分もあれば、異なっている部分もある。

9. 「在日中国語教育」における教材の「国別化」

本研究では、日本における中国語文法教育の一環として、教材は副詞をどう提示すべきかについて考察したが、結論は以下の2点にまとめられる。

1) 日本人学習者の副詞の誤用パターンは語順の違い、脱落、付加、代替、品詞の混同の5種類がある。語順の違いは学習者の母語である日本語の干渉が主な原因であり、代替は類義語の使い分けが身についていないことが原因であると推測される。

2) 日本で出版されている教科書は副詞の提示において、「簡略化」する特徴がある。副詞を新出語句の中で処理し、品詞名と日本語の意味をつけるだけで、具体的な使い方は示さない。1)で述べた学習者の副詞の誤用パターンから、教科書の中で副詞の文中における位置情報や副詞を連用する際のルール、意味的に類似している副詞の使い分けなどについて明確に、細かく、具体的に提示する工夫をすべきであると考えられる。

8.4で述べたように、「在日中国語教育」と「対外中国語教育」は扱っている副詞の範囲

が重なっている部分もあれば、異なっている部分もある。1) で述べた学習者の誤用パターンと2) で述べた教科書における副詞の提示内容も含めて、日本における中国語教育は教材、教授法において「対外中国語教育」とは違う、日本視点が必要であろう。

注

- 1 崔希亮 2010 参照、筆者訳。
- 2 齐沪扬 2013 参照、筆者訳。
- 3 王力 1943 では“凡无所比较,但泛言程度者,叫做绝对的程度副词”(凡そ比較がなく、程度を表すものは絶対程度副詞という。)(上巻 268 頁);“凡有所比较者,叫做相对的程度副词。”(凡そ比較するものがあるのは相対程度副詞という。)(上巻 270 頁)と指摘し、比較対象の有無によって、程度副詞を「相対程度副詞」と「絶対程度副詞」に下位分類している。
- 4 三原 2008、p16 参照。三原 2008 では(▲)としているが、本稿では便宜上①②③④という数字番号に変えた。

参考文献

〈中国語文献〉

1. 崔希亮 2010. 〈对外汉语教学与汉语国际教育的发展与展望〉《语言文字应用》第5期
2. 国家对外汉语教学领导小组办公室汉语水平考试部编 1996. 《汉语水平等级标准与语法等级大纲》高等教育出版社
3. 卢涛 2005. 〈汉语副词使用错误分析〉『広島大学総合科学部紀要 .V. 言語文化研究』31 卷
4. 鲁建骥 1998. 《对外汉语教学思考集》北京语言大学出版社
5. 吕文华 2014. 《对外汉语教学语法讲义》北京大学出版社
6. 齐沪扬主编 2013. 《对外汉语教学语法》复旦大学出版社
7. 王力 1943. 《中国现代语法》(上卷), 商务印书馆
8. 《新汉语水平考试大纲》2015. 人民教育出版社
9. 张谊生 2000. 《现代汉语副词研究》, 学林出版社

〈日本語文献〉

1. 相原茂主編 2015. 『中国語類義語辞典』朝日出版社
2. 荒岡啓子等 2008. 『中国語検定4級練習帳』光生館
3. 王振宇・李小捷 2012. 「日本語の「ちょっと」に相当する中国語表現：“有点儿”“一点儿”“一下”の習得状況に関する一考察『ポリグロシア第23巻』
4. 郭春貴 2001. 『誤用から学ぶ中国語』白帝社
5. 関西大学中国語教材研究会編 2007. 『中国語検定徹底対策3級』アルク
6. 小泉政利・玉岡賀津雄 2006. 「文解析実験による日本語副詞類の基本語順の判定」『認知科学』13 (3) :pp392-403
7. 中検研究会編 2014. 『中検3級問題集2014年度版』光生館
8. 中国語教育学会学力基準プロジェクト委員会 2007. 『中国語初級段階学習指導ガイドライン』
9. 仁田義雄 2002. 『新日本語文法選書3副詞的表現の諸相』くろしお出版
10. 三原健一 2008. 『構造から見る日本語文法』開拓社
11. 刘爱群 2015. 〈“オ”和“就”的习得情况考察〉『メディア・コミュニケーション研究』北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院

〈欧文文献〉

1. Ellis, R. 1994. *The study of second language acquisition*. Oxford:Oxford University Press.
2. Krashen, S. 1985. *The Input Hypothesis:Issues and Implications*. Londen:Longman.
3. SKEHANP P. A. 1998. *Cognitive Approach to Language Learning* [M]. Oxford:Oxford University Press.